

第2回新潟市岩室地域児童館指定管理者申請者評価会議概要

日 時：平成29年10月20日 午後1時30分から

会 場：新潟市西蒲区役所 2階 応接室

出席者：評価会議委員 小林正則委員、松川義明委員、福島實委員、原田留美委員、後藤ナガ子委員
傍聴者 1名

事務局(西蒲区役所健康福祉課)堀内課長、樋浦課長補佐、佐藤児童福祉係長、佐藤主査

1. 開 会
2. 健康福祉課長挨拶
3. 事務局説明
4. 申請者プレゼンテーション・ヒアリング

(1) 株式会社イドムによるプレゼンテーション

(委員)

- ・現在契約している他の指定管理契約の再受託の可能性は。

(プレゼンター)

- ・今ある複数の契約のうち8割で再受託できると思う。

(委員)

- ・売上と利益を確保できるか。

(プレゼンター)

- ・売上 8500 万、利益は大体 1500 万円位を確保できる。

(委員)

- ・来館数を増やす取り組みとしてロコミ、児童館だより、ホームページ、施設案内パンフ等のいわゆる情報提供をやるのか。

(プレゼンター)

- ・はい。

(委員)

- ・利用者が2万人を割っている。どういう施策を考えているのか。

(プレゼンター)

- ・道の駅「天領の里」等の指定管理をやり、黒字転換させた実績とノウハウでやりたい。

(委員)

- ・事務費の方で、本社管理費や一般管理費の経費の内訳や積算根拠は。

(プレゼンター)

- ・これは経費の5%程度を計上している。

(委員)

- ・常勤以外の雇用は勤務時間が18時間とあり、下の欄に非常勤は5時間×週4日とある。雇用契約書

上で合計20時間だと雇用保険の対象となる。どちらか。

(プレゼンター)

- ・勤務時間20時間で、雇用保険の対象と考えている。

(委員)

- ・受託したら、新規に雇用するのか。

(プレゼンター)

- ・今いる施設にいる方を最優先に雇用する。

(委員)

- ・グレーゾーンの発達障がいや自閉スペクトラム症の来館者に対する対応はどうか。

(プレゼンター)

- ・差別せずに利用してもらおう。当社のノウハウや経験者で対応していく。

(委員)

- ・発達障がい等の特殊なお子さん達に対応できる人材(資格経験等)は御社にはどの程度いるのか。

(プレゼンター)

- ・フリースクール等のノウハウがある。それで対応していく。

(委員)

- ・施設のトップの人により、雰囲気や地域の評判が変わる。何か具体的な人材等のイメージはあるのか。

(プレゼンター)

- ・ある。

(委員)

- ・児童館の業務は営利とは違う。なぜ応募したのかを一言でいうと。

(プレゼンター)

- ・自分たちのノウハウを使い、子どもたちに遊びを通じ健全に育てて欲しいとの気持ちから。

(委員)

- ・受託して、今いる社員を再任用する際の社員評価とかはどうか。

(プレゼンター)

- ・一人一人面接をして、お互い話をして評価をしていく。

(委員)

- ・全体年間を通じ社員評価はどういうものを、やっているのか？

(プレゼンター)

- ・本人から自己申告をしてもらい、面談を行う。それで年2回評価を行い、そして年間評価を行う。

(委員)

- ・2、3日に一回とかなり行事が多い。企画運営はどのようにしているのか。

(プレゼンター)

- ・企画は本社の方で行う。行事内容については現地の意見を聞き、差し替えをする。

(委員)

- ・運営の方は。

(プレゼンター)

・当社でノウハウがある場合はそのままやり、足りない部分は外部スタッフに依頼をする。

(委員)

・児童館の本質は遊びの場。それをどの様にとらえているか教えて欲しい。

(プレゼンター)

・自主性に基づき、必要な導きをして、遊びを通じて育っていくように仕組みでいく。

(委員)

・子供の自主性を引き出すのに、どういう働きかけやプログラムを用意しているのか。素案で構わないので教えて欲しい。

(プレゼンター)

・自主性は、まず成功させて、うまくいった事に対し認めてあげる。認めてあげる事で、さらに伸びていく。基本的な考えはこれ。

(委員)

・情報公開について何をどの程度するのか。

(プレゼンター)

・必要に応じて、必要な事項については情報公開する。

(委員)

・クレームについては。

(プレゼンター)

・誠意をもってクレームに対して接していく。きちっとした対応を続ける事。

(委員)

・幼保だとクレームは公開するように指導がされている。それをホームページ等で公開している。

(プレゼンター)

・積極的に検討させていただき、対応したい。

(委員)

・ボランティアの活用は考えていないのか。

(プレゼンター)

・積極的に活用したいと考えている。

(委員)

・ボランティアを活用する時のフォロー体制はどうなっているのか。

(プレゼンター)

・話し合いをして、相談をしながら、運営をさせていただきたい。

(委員)

・ちゃんとした研修を受講し、スーパーバイザーを置くようにした方がいいのでは。

(プレゼンター)

・参考にさせていただく。

(2) シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社によるプレゼンテーション

(委員)

- ・組織人員体制雇用労働条件について、今、4名体制でやっていて問題ないか。

(プレゼンター)

- ・1日、3～4名の職員を配置しているが、問題なく対応できている。

(委員)

- ・常勤以外の方々は地元の方を採用しているのか。

(プレゼンター)

- ・地域の方を第1優先で採用している。

(委員)

- ・グレーゾーンの発達障がいであるとか、そのような子の考え方を。実際にどのように対応しているか。

(プレゼンター)

- ・私達は発達障がいに関して研修勉強している。その子の特性を理解し館内でも周知した上で、トラブルにならないように配慮している。また、あまりにもトラブルになる可能性がある場合は、シダックスキッズサポートチームが現地に出向いて対応する。

(委員)

- ・雇用の件で、非常勤の児童厚生員について、社員転換制度の対象になるのか。

(プレゼンター)

- ・正社員登用制度がある。

(委員)

- ・ヒアリング調査の詳細を。誰がどのように。

(プレゼンター)

- ・職員がインタビュー形式で行う。アンケートです、という形ではなく、普段の会話の中で聞きだし、対応を考えるようにしている。

(委員)

- ・ヒアリング調査は1年を通してやっているのか。

(プレゼンター)

- ・そうです。

(委員)

- ・今年度新たに実施した施策は。

(プレゼンター)

- ・今年度からではないが、保育園への説明会。これは、大きいと思っている。新1年生の利用が圧倒的に増えた。

(委員)

- ・今年度から高学年の来館が増えたという背景は。

(プレゼンター)

- ・来館した時の4年生だったころから関わってきて、信頼関係を築いてきたことが一番大きい。児童館

に愛着を持ってくれることに繋がっている。

(委員)

- ・ 1点目、離職率が高いということについて、具体的に分かること。
- ・ 2点目、不登校や引きこもりが児童館に救いを求めてきた時に館の中のどこで過ごすことができるか。
- ・ 3点目、決算で予算より100万円ほど人件費は安かったようだが。100万円あればパート等もう1人雇えて対応できたのでは。事情を教えてください。

(プレゼンター)

- ・ 1点目について、社会的に離職率が高いと言われているが、岩室地域児童館でもあった。処遇やコミュニケーション、家庭の問題等あるが、結果としてやめてしまったという事実を受け止めながら、できる範囲で対応していきたいという中で、今回提案したのが、仕事以外でのコミュニケーション、きちんと肉声で伝えること。まだまだ至らない点もあるので、今後の課題として取り組んでいきたい。
- ・ 2点目について、高校生が一番多いが、その子が求める部屋を提供している。事務室だったら事務室。臨機応変に対応している。
- ・ 3点目については、特に会社側で意思があってしているものではない。

(委員)

- ・ 関連して、人件費が100万減少している。講師謝礼も縮減している。説明をお願いしたい。

(プレゼンター)

- ・ 人件費について、当初予算から縮減した分を代務員に充てているが、経費支出は管理費で組んでいる。

(委員)

- ・ 代務の方は本社から派遣するのか。

(プレゼンター)

- ・ 営業所からのスタッフ派遣になる。

(委員)

- ・ 今回、代務員での予算がそのまま引き継がれているが、人件費を上げなくても大丈夫か。

(プレゼンター)

- ・ 本来であれば、労務費の中でまんべんなく運営していくのがベストと考えているが、現状としては足りない部分があるので、会社全体のトータルでサポートしていきたい。

(委員)

- ・ H30予算管理費の積算根拠は。

(プレゼンター)

- ・ 代務員や研修費等が含まれている。

(委員)

- ・ 人件費、事業費が削減していったら、管理費が上がっているのは見た目が悪いので、費目は考え直した方がよい。

(プレゼンター)

- ・ 承知した。

(委員)

- ・ 県内で1か所ということで人事交流がない。人事交流がないということは、よほど人の資質にウェイ

トを置かないと人の資質がとどこおる。そのあたりのお考えは。併せて、現場と本社の距離があるが、職員評価をどのようにしているのか。

(プレゼンター)

- ・人事交流がないというのは我々も大きく考えていて、全国での館長会議を年1回行っているほか、地域でやっている研修や事件事故等をウェブ上で管理していて、それを館長が閲覧して共有して対応している。現場の職員と距離があることについては、県内には新潟市に営業所があり、営業所長と運営を支援する支援担当者がある。1次評価、2次評価、最終評価があるが、まずは支援担当者や営業所長が評価をしながら最終的に本社が評価をしているので、全て本社が評価をしている訳ではなく、間に営業所長や支援担当者も評価をしている。

(委員)

- ・活動の中身について教えてほしい。事業等の企画は現場の先生方で行っているのか。

(プレゼンター)

- ・はい。

(委員)

- ・会社の方からエキスパートのフォローはないのか。

(プレゼンター)

- ・会社の方は地域の事を全て理解していない。会社の方針は、しっかり地域の事を理解し子ども達にあった事業を行うことである。各児童館で独自に事業を行っている。

(委員)

- ・来館年間2万人で、1日にすると、約60人。年齢もばらばらで保護者支援もしないといけない。大変だと思うので、何かフォローはないのかと思った。イベントのない日の運営はどのような感じか。

(プレゼンター)

- ・午前中は主に近隣の母親が来館して自由に遊んで、13時から15時は静かな時間となり、15時位から小学生が入ってきてトランプや鬼ごっこなどを行っている。

(委員)

- ・通常のプログラムで大事にしていることや季節のねらい等紹介してほしい。

(プレゼンター)

- ・季節で言えば、園庭でとれたさつまいもを試食してみたりしているが、一番大事にしていることは、とにかくコミュニケーション。声掛け等ささいなことを忘れないようにやっといこうと思っている。

(委員)

- ・ボランティアを活用しているが、ボランティアに対するフォローはあるか。

(プレゼンター)

- ・ボランティアさんのための講師は特別招聘していないが、ボランティアさん自身で行いたい内容を聞いて長くボランティアとして活動してもらいたいと思っている。学習ボランティアを目指してくる人もいる。

(委員)

- ・子ども運営委員会はどのような感じで行っているか。

(プレゼンター)

- ・年度初めに小中学校向けのお便りに書き、7月の館最大のイベントである児童館祭りに向けて運営委員会を立ち上げていく。4月～8月で月2～3回運営委員会を行うが、全員揃うことがないので、個々で来れる日にきて、意見等の情報共有を図っている。

(委員)

- ・児童館というと、低学年まではイメージが付きやすいが、中学年、高学年、中学生はどういう使い方をしているのかと思っている。ここでは高学年はどういう活動をしているのか。

(プレゼンター)

- ・縦割りで上手に遊んでくれているというイメージでいる。小学生は1年～6年まで一緒になって遊んでいるのが和納小学校の特徴。中学生は、小学生と遊びにきたという日もあるし、単純に個人でいることもある。

(委員)

- ・子育て支援センターとの違いは。何か意識しているか。

(プレゼンター)

- ・児童館の特徴としては広いことがある。2～3歳のお子さんをお持ちのお母さんが支援センターに行くと、0歳さんに気を使って動きにくくなってしまいうので、児童館で思い切り走ったり、車のおもちゃで体を動かしたり、というところに意味を持って来てくれる人が多いように思うので、そこに着目して事業をしている。隣に公園もあるので、大きく使っている。卒館進級式は支援センターには無いシステムで、児童館に2～3年通っている子がついに母親の手を離れて保育園幼稚園に上がるイメージを持ってもらうために初年度から実施しているもので、それが児童館の大きな特徴。

(委員)

- ・提案書の中でこれから新しく実施する事業はあるか。

(プレゼンター)

- ・小中学生交流事業や職業体験など。

(委員)

- ・クラブ活動は、講師は職員と地域ボランティアでできるのか。

(プレゼンター)

- ・できます。

(委員)

- ・育児講座も現場でできるのか。

(プレゼンター)

- ・育児講座は、外注してNPO法人と共同事業として行っている。物づくりも保護者に好評で、地域の方もお手伝いしてくれるので、そういった横のつながりも大切にやっていきたい。

(委員)

- ・スポーツ大会は1回150名だが、これを現場の方々で対応できるのか。

(プレゼンター)

- ・その時は営業所から応援を呼んで、大人の数も多くして開催しようと思っている。

以後の意見交換・採点は非公開のため傍聴者は退出

5. 評価会議委員による意見交換会、採点

採点集計結果について各委員に確認してもらい、相違ないことを確認

6. その他

7. 閉会